

妖怪タペストリー現る！

広瀬さん

教育長



別子銅山記念図書館 ☎ 32-1911

新居浜に伝わる昔話をモチーフにした「妖怪タペストリー」が、絵本作家の広瀬克也さんと出版社「絵本館」から別子銅山記念図書館に寄贈されました。タペストリーは広瀬さんがポップな絵柄のキャラクターを描いたもので、図書館の児童コーナーに展示されています。

広瀬さんは図書館開館 30 周年記念イベントのゲストとして本市を訪れ、寄贈式に出席。「小女郎狸^{こじょうらぬき}や幽霊の片そでは初めて聞いた。こんな話があるんだ、面白いと感じた」とあいさつしました。

広瀬克也（ひろせ・かつや）

1955 年、東京生まれ。絵本作家、グラフィック・デザイナー、イラストレーター。「クレヨンハウス絵本大賞」で優秀賞を受賞した「おとうさんびつくり」（絵本館）で絵本作家デビュー。代表作は妖怪絵本シリーズ「妖怪横丁」「妖怪横丁大運動会」（絵本館）ほか。

モチーフになったキャラクターたち

モチーフになった昔話は 4 話。「一宮の小女郎狸」のような有名どころもあれば、地元であまり知られていない話も。「新居浜のむかしばなし」（市教育委員会発行）などを参考に、あらすじを紹介します。皆さんはいくつ知っていますか？



「新居浜のむかしばなし」は図書館に所蔵しています。市 HP にも一部抜粋し掲載中！



庄屋とエンコウ

悪事反省 お詫びのタイ

新須賀の「御引淵^{おひきぶち}」に生息する、いたずらもののエンコウ（カッパ）。ある日庄屋の馬を淵に引きずりこもうとし、馬が跳ねた拍子に頭の皿の水がこぼれて力を失った。庄屋が今後悪いことをしないよう諭し、許してやると、エンコウはうれし涙を流して感謝。毎日のようにお礼のタイを差し入れるようになったが、ちょっとしたことで女中に叱られ、それ以来、来なくなったという。



ゆうれの^片そで 我が子を思う母の形見

お雪は継母にひどくいじめられ、亡くなった母の墓前で夜な夜な泣き明かしていた。ある夜、いつものように墓前で泣いていると、目の前が青白く明るくなり、墓の後ろから母が現れた。母はお雪を抱きしめ、尼になって母を弔い、かわいそうな子どもを救うよう言い残した。そして、形見として着物の片袖を引きちぎってお雪に渡し、消えてしまった。お雪はその足で寺に駆け込み、言いつけ通り尼になった。73歳で亡くなるまで、不幸な子どもや困っている人たちを助けたという。

大島の願行寺には、片袖や掛け軸などゆかりの品が大切に保管されています。



一宮の^狸小女郎 好物のタイ我慢できず

小女郎狸は代々一宮神社の宮司に仕える利口なタヌキだったが、ある日、お供え物のタイを食べてしまった。それが宮司にばれ、一宮の森から追放に。困った小女郎狸は慈眼寺の和尚に化け、大阪行きの船に乗せてもらった。何日もの船旅で空腹になり、またも積み荷のタイを盗み食い。船頭に見つかり、正体を見破られた。小女郎狸は「金の茶釜に化けるので、これを売ってタイの代金にしてください」とお詫び。古道具屋に高く買ってもらい、約束を果たした。その後は美しい娘に化けて大阪の町を歩き回り、友だちのいる森を訪ねたそう。



大楠の根元に楠木神社があり、小女郎狸がまつられています。



物語を題材にした踊りもつくり、ゆるキャラ・こじよろちゃんも普及に一役買っています！



一つ目小僧とにらみ合
いして、負けたら食われ
ると言われてたんだ！



一つ目小僧 目の数で勝負仕掛ける

角石原の下、^{なが}「長さわ落し」(銅山ヒュッテの下あたり)という所で男が炭を焼いていた。ある晩仕事をしていると、一つ目小僧が小屋に入り、「わしの目を見い」と小うるさく言う。男は「お前には目玉が一つしかないのにえらそうに言うな。わしの目を見ろ」と、炭をすくうヨソロ(竹で編んだ大きいスコップのようなもの)を被り、「目がいくつあるか数えろ」とにらみつけた。一つ目小僧もこれには驚き、炭焼小屋に現れなくなったとか。